学術思想

MOMENT JOON著

日本移民日記

怒りの刃は、差し出された手

日本の男から「移民」ラッパーのあなたへ

前田年昭

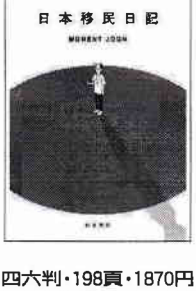
ソウル出身・大阪在住のラッパーであるモーメント・ジューンことキム・ボムジュン、あなたの詞は私をドキリとさせる。「俺はチョン、家に帰った後も「帰れ」と言われるチョン」「部屋の匂いはにんにく、今日の夕ご飯は人肉」「真っ赤なキムチでビンタ」――あぁ朝鮮人だからな、と自身の〝常識〟の枠へ取り込んでやり過ごそうとする私を、あなたの言葉は引き戻す。逃げるな、目を背けるな、お前の立場を明らかにしろ、と。詞は同時に、人は多様という分かったふりの同情や妥協（共生！）を拒む。あなたの詞は、私のなかにある〝世間の既成概念〟、その無意識とそこに潜む支配者の思想を自覚させる。

私は、理解しえぬ人々を〝存在しない者〟即ちガイジン、韓国人などと認識する「普通の日本人の男」である。沖縄出身の山之口貘の「会話」という詩を連想する。「お国は？」という女の問いに、男は「あれは日本人ではないとか日本語は通じるかなど〻談し合ひながら、世間の既成概念達が寄留するあの僕の国か「酋長だの土人だの虐手だの泡盛だの〻同義語でも眺めるかのやうに、世間の偏見達が眺めるあの僕の国か」と自問する。

「普通の本土の男」である私は、目の前の俺が〝見えない〟のかという男の心もとなさが分からない。けれど不安に立ち止まる。私はいったい何ものなのか……。

あなたもまた「コンビニで俺らを見たんじゃないの？」と歌のなかで問いかける。「使った後は捨てる／あの技能実習生たちは今どこ？ヘドがでる／でもそりゃ話さないワイドショーは／学校のイジメこそ日本の調和／そのせいで何人の子どもが涙を流した／それがニッポンだって？あ!!分かりました／それが美徳ならおりゃチョンで良い／差別されてもお前の10倍する」ことで、「在日」としての声はむしろ弱くなるのではないですか」（一三一頁）というあなたの「在日」批判は的を射ている。必要なのは、傷を比べあう悲惨さからの抵抗ではない。

この世の臣民憲法下、民（臣民）の戦後民主主義に支えられ揺るがない。「一切ノ自然人ハ法律上平等」としたマッカーサー憲法草案は、日本人官僚によって「すべて国民は法の下に平等」と「国民」に替えられ、憲法上の保障から「外国人」は排除された（入管問題！）。在日朝鮮人、沖縄出身者、被差別部落民、障害者……。「誰の傷がもっと大きくて深い・非国民を下に置いた国か」を比較して人を排除



四六判・198頁・1870円
岩波書店
978-4-00-061504-4
TEL.03-5210-4000

自己責任論でがんじがらめの〝見えない者〟たちは、独りぼっちで仲間と出会えないまま、怒りを〝暴発〟させるか、さもなければじわじわと野垂れ死ぬしかないのか。あなたもまた「僕の孤独はいかにも具体的で「普通」とは違うから、それを歌にしたって多くの人に聴かれないし」（一七九頁）と言うが、あなたはマレーシア留学生と「お互いの悩みを、孤独を分かちあ」（一八一頁）っていた。二人を結んだのは、〝見えない者〟同士の「日本にも聞いてもらいたかった」孤独と、「日本は、僕らのこの孤独を、永遠に知らないだろう」という悔しさをうたうあなたの歌だった。「それまでは自分の孤独で精一杯で見えなかった人々の孤独が見えてきた。……本当の名前を隠して生きている人の孤独、日本に住んでいるのに「いつ国に帰るの？」と聞かれる人の孤独。孤独な人同士で一緒に泣くことも、怒ることも、頑張りましょうとお互いを応援することもできたけど、そのたびに気づいたのは「これじゃ足りない」ということだった」（一八五頁）。書いたものが「日本人の読み手にとっては対岸の火事」と無視され、インタビューには九〇〇を超えるヘイトコメントがつき、日本社会の排外的現実はいつまでたっても何ひとつ変わらない。

「日本の普通の男」である私は、あなたたちの孤独が分からない。けれど、私をドキリとさせたのもまたあなたの歌だった。私はといえば、私として、変わろうとしないこの社会が嫌なのだ。だからこの排外社会を見ようとしない日本人に向けた刃としてのあなたの歌に、振り向かずにおれなかった。届いたのは真っすぐな怒りだ。「愛」（一七六頁）ではなかった。つないだのは、いっけん誰にも（！）分かりやすく心地よい「愛」などではない。かつて「吾々がエタであることを誇り得る時が来た」という『水平社宣言』に励まされた若い私は、日雇労働者仲間と「労務者」という蔑称を名のって雑誌を作った。被害をいいたてるのとは違う、〝見えない者〟たちが自らの尊厳を取り戻す闘いだった。闘いは失敗し仲間はバラバラになった。

私は「日本の普通の男」である。私は決してあきらめない。「君が手を上げるまで／寂しくて怖いけどずっと歌うよ／見せて手のひら（ひら、ひら）」（一九〇頁）。歌の下手な私も手を上げ続ける。いつか必ずあなたと出会えると信じて。（まえだ・としあき＝組版）

★MOMENT JOON＝ラッパー。ソウル特別市出身、大阪府池田市井口堂在住。二〇二〇年のファーストアルバム『Passport&Garcon』では、日本社会における排外主義の興隆や差別意識の蔓延、同調圧力、シニシズムについて突きつけた。